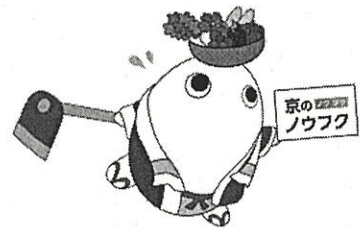


京都式農福連携構築事業の進捗について

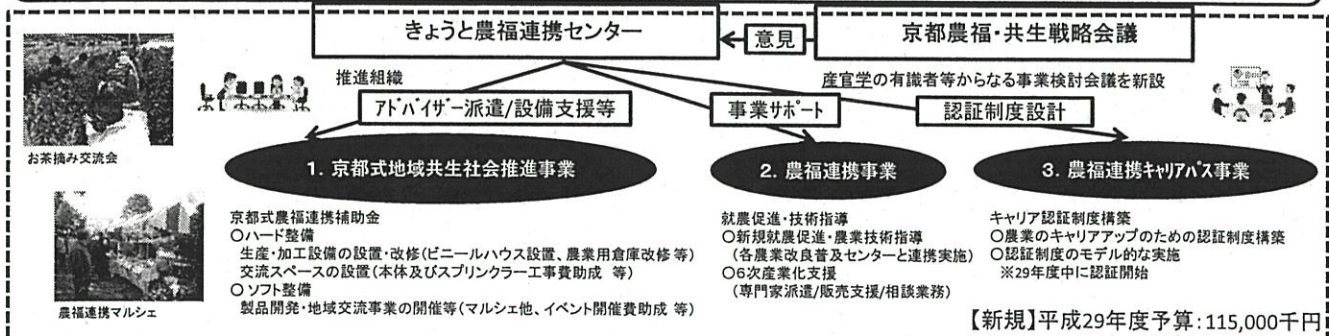
平成30年1月

きょうと農福連携センター



京都式農福連携構築事業の概要

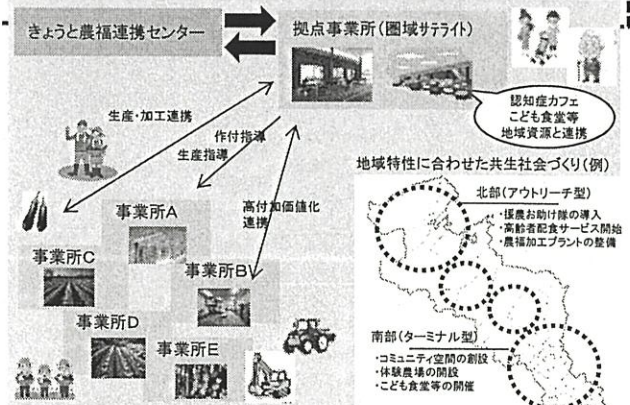
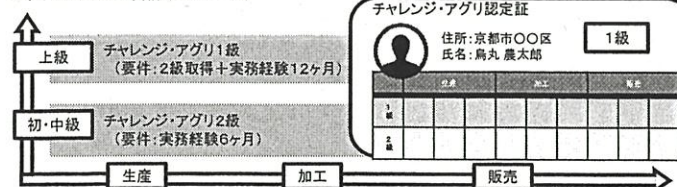
農福連携を軸に、障害者の就労促進や居場所を創造すると共に、障害者をはじめ地域の多種多世代の人々が地域の「担い手」を育む京都式地域共生社会づくりを推進する。



京都式農福連携補助金

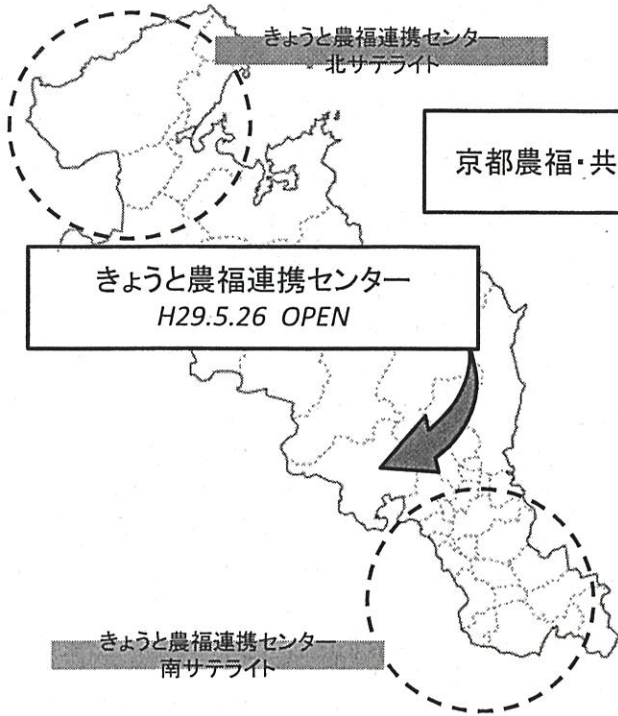
	ハード整備	ソフト整備
対象	生産・加工設備/交流拠点	製品開発/交流事業
基準額	事業所 5,000千円	一律 3,000千円
補助率	2/3	2/3

キャリア認証制度構築(イメージ)

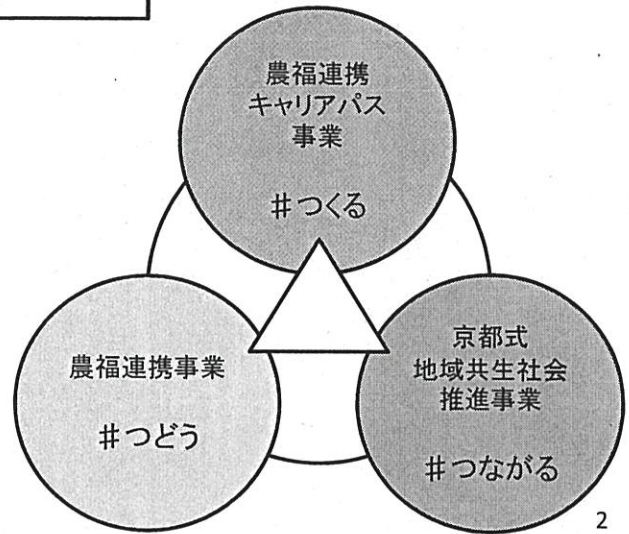


全国に先駆け、京都の強みを活かした地域共生社会の京都モデルを全国に発信!

京都式農福連携構築事業の概要



※京都農福・共生戦略会議
京都式地域共生社会づくりにあたって協議等を行う、学識経験者、関係機関等から構成される有識者会議。



農福連携事業

地産地消の和で地域につどい、
地域農業の生産性を高める。

#つどう
Gathering

マルシェの開催支援



専門家による作付指導

栽培品種	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
タマネギ								●	→	→	→	→
ニンジン						●	→	→	→	→	→	→
サラダゴボウ						●	→	→	→	→	→	→
パセリ				●	→	→	→	→	→	→	→	→
ホウレンソウ						●	→	→	→	→	→	→
コマナ						●	→	→	→	→	→	→
シュンギク						●	→	→	→	→	→	→

○主な相談内容・対応等

- ・無農薬(低農薬)栽培について技術指導をお願いしたい。
→既に無農薬栽培等されており、組織内で検討した結果、既存のやり方を変更すると指導員や利用者が困惑する恐れがあるため、現状のままで様子を見ることになった。
- ・台風の影響で中折れした九条ネギの対応。ハウスの破損措置について。
→アドバイザー派遣及び改良普及員の派遣により一先ず解決した。
- ・重度の方でも取組めるよう、年中同じ作業に従事できる環境を整えたい。また、どのような作物が適しているのか。
→現在、組織内で協議中。近日中に派遣依頼がある見込み。

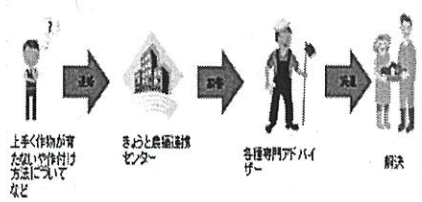
☆アドバイザー派遣受付中☆

作物対策について相談したい
思ったように育たない
収穫で農薬を絡めたい
人材育成について教えてほしい

販売について悩んでいる
販売履歴について教えてほしい
他の事業所や企業と連携したい
人が集まる事業所について教えてほしい

困ったことや聞いてみたいことがあればお気軽にご連絡ください。
→きょうと農福連携センター(075-414-4600-4506)

家のノウフク 検索



派遣までに至った事例が少ないことが課題

○利用促進のための改善方法

- ・アドバイザー派遣のチラシを作成し、各市町村に配付及び各事業所に情報提供
- ・アドバイザーのプロフィールなどの情報をHP等に掲載(予定)

農業調査の概要(丹後)

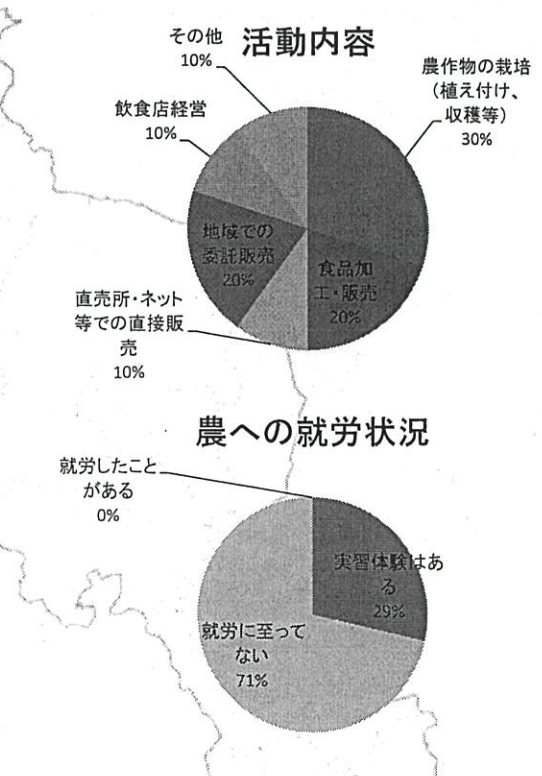
就労事業所に対する農福連携の状況調査を圏域ごとに順次実施

働き方

- ・事業所で農作物の栽培をされている所が多く、食品加工・販売をされている事業所も見受けられた。
- ・一部の事業所では、援農や下請け作業の請負いを任せられている。

就労

- ・農作業をすることで「工賃アップ」や「精神面の安定に繋がる」など様々な理由により農福連携に取り組まれている。しかし、就労の観点からすると農業関係機関に実習経験のある利用者は数名おられるが、過去5年間で農業関係機関に就労できた利用者は0名であった。



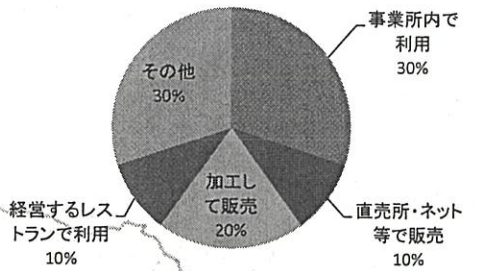
流通

- ・農作物を事業所内で利用されており、大きな利益に繋がっていないことが判明。一方で今後の展開として加工販売まで実施したい事業所は多くある。
- ・加工して販売している事業所や過疎地域ということもあり、ネット販売等で販売されているところもある。

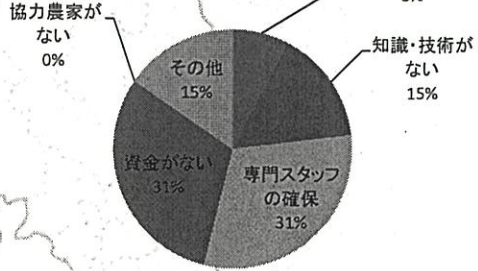
まとめ

- ・職員や利用者の高齢化により農作業が困難になっている事業所もある。
- ・近隣農家の支援を得ながら取組まれているが、知識や技術のある人員の確保や資金面に課題がある。
- ・今後、農業活動に取り組みたいや検討中とされている事業所は、非常に多かった。

農作物の活用



活動課題



これまで開催のマルシェについて



主催者等	日程	開催場所	イベント名	備考
さんさん山城	平成29年4月22日	さんさん山城/京田辺市	さんさん山城2017マルシェ	地域の子育て団体や他の事業所と連携。
京都府	平成29年5月26日	みやこメッセ/京都市	京都府農福連携センター開所式	京都府農福連携センター開所式に併せて、マルシェを開催
全国農福連携協議会 (京都府共催)	平成29年9月2・3日	京都マルイ/京都市	ノウフクマルシェ	農福連携全国都道府県ネットワークとも共催し、全国規模で開催
(株)アットホーム	平成29年10月1日	るり溪高原やぎ牧場/南丹市	るり溪収穫祭	やぎの乳搾りやえさやり体験等のコーナーを設置。主に地元住民を対象として開催
京都府	平成29年10月21日 11月3日	京都府庁旧本館 南側スペース	農福連携(ノウフク)マルシェ×観芸祭2017	例年実施。今年度は併設して、スイーツ甲子園の予選会も実施
滝・金屋農業振興会 (リフレかやの里加盟)	平成29年11月5日	よさの野菜の駅(旧道の駅 シルクのまちかや)	『滝・金屋命の里』大感謝祭	地域の農業者を中心に開催。メンバーとしてリフレ加悦の里が参加
京都ひらぎのワークスTAO	平成29年11月25日	京都ひらぎのワークスTAO/京都市	秋の収穫祭&臨床美術展	炊き出しやミカン狩り体験等を実施。主に地元住民を対象として開催

今後の開催予定のマルシェ

主催者等	日程	開催場所	イベント名
京都府	平成30年1月20日・21日	イオンモール京都桂川 特設エリア	(仮称)新春大感謝市(ノウフクマルシェ京都)
京都府	3月11日	西京極運動公園	第29回全国車いす駅伝競走大会
京都府	平成30年3月	京都府庁旧本館 南側スペース	農福連携(ノウフク)マルシェ×観桜祭2017

「ノウフク新春大感謝市」の概要

- (1)日時 平成30年1月20日(土)10時～19時、21日(日)10時～17時
 ※20日(土)11時30分～12時00分:オープニング式典を予定
 京都府山田知事、三重県鈴木知事(農福連携全国都道府県ネットワーク会長)も参加
- (2)参加事業所
 京都府内 20日12事業所、21日10事業所(18事業所)
 他府県 20日9事業所、21日10事業所(15事業所)
- (3)場所 イオンモール京都桂川 1F「月の広場」
 (京都市南区久世高田町376-1)
- (4)内容 ・福祉事業所にて製造された農産物及び農産加工品等の販売
 ※事業所等の取組内容の発信
 ・啓発イベント(ミニステージでの映像啓発・豚汁炊出し 他)
 【[ノウフク]とうがらし生産お披露目会】
 ・福祉事業所によるとうがらし生産活動内容の発信
- (5)主催 京都府、共催 農福連携全国都道府県ネットワーク
 後援 厚生労働省、農林水産省近畿農政局、全国農福連携推進協議会、
 一般社団法人日本基金
- (6)協力 イオンリテール株式会社、イオンモール株式会社

○広報啓発活動

- ・センター開所と合わせて、公式ホームページ「京のノウフク」を開設。(http://www.kyo-noufuku.com/)
- ・府民だより7月号で、京都市「農福連携」の特集を掲載。
(http://www.pref.kyoto.jp/koho/dayori/201707/toku_01.html)



- ・京都市農福連携構築事業について、新聞、TV等でも報道。

【主な報道等】

- ▶京都新聞、日本経済新聞、日本農業新聞、福祉新聞
- ▶NHK京都放送局
 - 京いちにち(10月5日放送)の中で、京都府内の農福連携の特集を放送
- ▶京都放送(KBS)
 - おやかまっさん(6月1日)の中で、きょうと農福連携センターの取組を紹介
 - newsフェイス(10月9日)の中で、京都府内の農福連携の特集を放送
 - 京都アカデミー(10月23日)で、「京都市農福連携」の番組を放送
(https://www.kbs-kyoto.co.jp/tv/academy/)



10

京都市地域共生社会推進事業

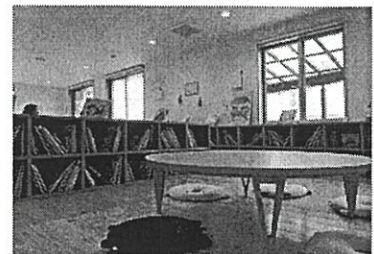
#つながる
Connecting

地域の多種多世代が
つながり・よりそう環境を整備する

■京都市農福連携補助金

	ハード整備	ソフト整備
対 象	生産・加工設備 地域交流拠点整備	製品開発 交流事業
基準額	5,000千円	3,000千円まで
補助率	2/3	2/3

地域交流スペースの設置



高齢者向け配食サービス



11

主な農福連携に携わる府内の事業所

府内の状況

・就労系事業所約378事業所のうち約53事業所が農福に取り組んでいる。

単位:人

人口推移	H28.7.1	H29.7.1
丹後	96,119	94,316
中丹	195,435	193,550
南丹	136,052	134,845
京都市	1,475,206	1,472,395
乙訓	149,630	151,517
山城	554,345	554,225

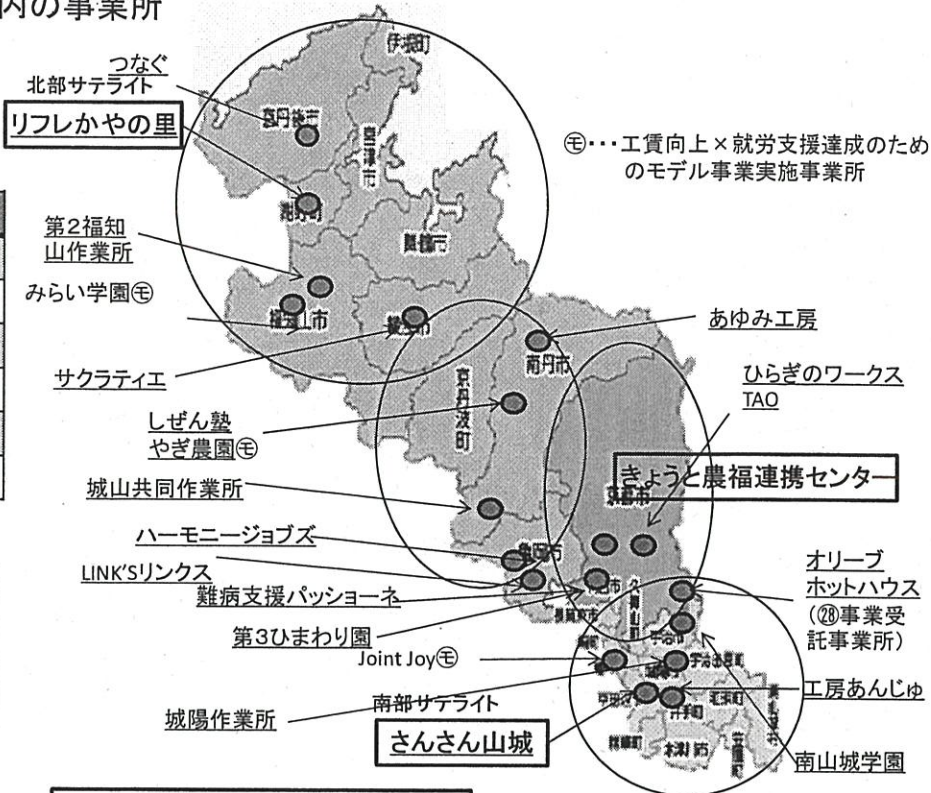
北部は人口減、南部は人口微増。

単位:%

高齢化率	H27.3.31	H28.3.31
丹後	34.6	35.3
中丹	30.1	30.7
南丹	28.7	29.7
京都市	26.5	27.1
乙訓	25.7	26.2
山城	26.0	26.8

府内全域高齢化率は増加しており、特に北部は高齢化が進んでいる。

※住民基本台帳に基づく市町村からの報告数値



⊕...工賃向上×就労支援達成のためのモデル事業実施事業所

サテライト業務
 ・各地域の相談・調整役
 ・圏域の取組についてHP掲載
 ・中心となりマルシェ等の開催 など

京都市農福連携補助金申請事業所
 →7事業所(下線の事業所1.17現在)赤字は秋募集
 ↓
 府内20箇所目指す→17事業所85%達成

平成29年度京都市農福連携補助金一覧(春期分)

(単位:千円)

圏域	主な事業内容	総事業費	事業費分			備考
			交付決定額(予定)	ハード整備	ソフト整備	
与謝野町	ハード:加工施設整備、移動販売車リース ソフト:高齢者サロンの開催費用	23,363	15,333	13,333	2,000	交付決定
京田辺市	ハード:選果場・加工場改修、加工機器の設置、育苗施設新設 ソフト:マルシェの開催経費、農業指導受講	23,363	15,333	13,333	2,000	交付決定
南丹市	ハード:移動販売車両購入 ソフト:交流事業開催経費	4,216	2,808	2,388	420	交付決定
京都市	ハード:ビニールハウス設置、移動販売車両購入 ソフト:マルシェの開催経費	4,109	1,995	1,766	229	交付決定
井手町	ハード:ビニールハウスの設置 ソフト:体験農業の委託経費	7,264	4,682	3,333	1,349	交付決定
京都市	ハード:カフェスペース・加工場の改修 ソフト:農業体験場の整備、商品開発	8,692	5,333	3,333	2,000	交付決定
南丹市	ハード:ビニールハウスの設置、耕耘機購入 ソフト:交流事業経費、農業指導受講	8,707	3,719	3,333	386	交付決定

平成29年度京都式農福連携補助金一覧(秋期分)

(単位:千円)

区域	主な事業内容	総事業費	事業費分			備考
			交付決定額 (予定)	ハード整備	ソフト整備	
京丹後市	ハード:加工場の整備 ソフト:商品開発、販路拡大	10243	4,602	3,333	1,269	
福知山市	ハード:ビニールハウスの設置	303	202	202		
綾部市	ソフト:新商品の開発、マルシェ備品	2,639	1,759	596	1,163	
南丹市	ハード:農機具の購入	807	538	538		
亀岡市	ハード:ビニールハウス設置、農機具購入	2,607	1,738	1,738		
亀岡市	ハード:製パン施設整備 ソフト:技術指導費	5,388	3,592	3,333	259	
京都市	ハード:粉砕器 ソフト:肥料等	501	334	194	140	
京都市	ハード:フードコンベクション、ラベルプリンタ ソフト:マルシェ備品	2,966	1,977	1,565	412	
宇治市	ハード:加工施設、カフェスペース整備 ソフト:商品開発経費	5,324	3,549	3,333	216	
城陽市	ハード:冷蔵庫購入、農機具の購入	620	413	413		

14

京都式農福連携補助金交付事例①

京都北部(与謝野町)(福)よさのうみ福祉会 リフレかやの里

事業所概要

- 閉鎖されていた公立の宿泊型保養施設リフレかやの里の再生を目指して、福祉と地域と行政が連動し、2011年にスタート。
- 就労A型・B型事業に取り組み、地元農産物の加工、パンの製造、レストラン、ホテル、浴場の運営を展開。農産物の直売所も併設。
- 昨年5月26日にきょうと農福連携センター北部サテライト拠点に指定。



農福連携の状況

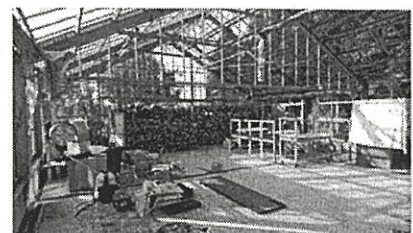
- 2011年のスタートと同時に加工場も稼働。農産物加工やパン・ケーキ製造等を行っている。
- 農産物加工、パン製造、宿泊施設のレストランでは、地元農家とも連携し、地元農産物を活用し、地産地消に取り組む。農産物加工等については、地元農家の規格外の野菜や果物等を活用し、地元農家にもメリットを生む取組を実施。
- 農産物直売所も運営し、地元農家とも契約し、販売。平成29年6月からは閉鎖された道の駅を活用した直売所にも参画。

京都式農福連携補助金の活用方法

【総事業費:23,363千円、補助額:15,333千円】

- 事業所の強みである加工施設を強化(第2加工場の整備)し、農家との連携による加工品の生産拡大を図るとともに、過疎化が進む地域の実情を踏まえ、移動販売の強化による買物困窮者への支援を強化

☆少子・高齢化が進み、地域コミュニティの希薄化や農業等の人材不足が深刻化している与謝野町において、障害のある方の就労の拡大と地域交流の拡大等により、地域の多種多世代の方が繋がることで、地域コミュニティの再生と地域経済の活性化を目指す



15

京都南部(京田辺市)(福)京都聴覚言語障害者福祉協会 さんさん山城

事業所の概要

- 2011年4月に開所。聴覚障害のある方を中心に、農作業、縫製品や木工品の製作等を実施。
- 就労B型に取り組み、農作物の生産に加えて、加工、コミュニティカフェの運営等も実施。
- 昨年5月26日にきょうと農福連携センター南部サテライト拠点に指定。



農福連携の状況

- 山城地域の特産品①宇治茶、②京都えびいも、③京都田辺なすなどの生産を行い、JAにも出荷。農業の担い手として地域農業に貢献。また、宇治茶の苗木の育苗を行い、地元のお茶農家にも提供している。
- 手摘み的高级抹茶を使用した「濃茶大福」「抹茶クッキー」、京都えびいもで作った「えびいもコロッセ」などを地域の模擬店等で販売。
- 地域交流のためのさんさん山城マルシェを発展させ、平成29年6月から、事業所の中に、コミュニティカフェをオープンし、地域の方に開放し、事業所で生産した野菜等を使ったランチを提供。

京都市農福連携補助金の活用方法

【総事業費：23,363千円、補助額：15,333千円】

- 6月にオープンしたコミュニティカフェを多くの方に利用していただけるよう改装するとともに、京都特産品を用いた加工をさらに拡大するために加工施設等の整備を行い、6次産業化を推進

☆子育て世代等も多く生活する地域において、地域交流機能を強化し、京都特産品の消費拡大も行うことで、多種多世代が繋がる地域共生社会のモデルを実現するとともに、障害のある方の工賃水準の向上や社会参加の拡大を図る



京都市内(NPO法人)ひらぎのワークスタO

事業所の概要

- 2010年5月にB型事業所を開所。障害のあるこどもの作業所としてスタート
- 室内作業としては神社仏閣に関する種々のお礼・お守りの紐付け・袋入れ作業、箱折作業等を実施。
- 地域の特性を生かした露地栽培、ハウス栽培の京野菜を作り、宅配販売、各種バザー出店



農福連携の状況

- 収益の良い京野菜等を中心に近隣農家の指導や協力をえながら、生産を実施
- 地域の高齢者等の住民に個別販売を展開。また、区役所などでも決まった日程で定期販売を行い、地域で販売を行っている。またバザーやマルシェなどでも積極的に販売を実施
- 事業所内で収穫祭を実施。近隣住民を中心として、作品展等とも結びつけながら、他の作業所等と合同で実施。

京都市農福連携補助金の活用方法

【総事業費：4,109千円、補助額：1,995千円】

- 移動販売を強化するため、販売車を購入。トラクター等n農機具を購入し生産力を強化

☆利用者とともに各戸販売を展開することで地域に事業活動の理解を促進するとともに顔が見える関係を構築。障害者が育てた安心安全な野菜の社会的認知を拡大。また高齢者の見守り活動の一翼を担う
マルシェは11月に実施。みかんがりや落書きコーナーの設置など地域住民にも参加できる企画を実施
今後生産力の増加に伴い、販売活動を強化の予定



京都市(福)向陵会 第3乙訓ひまわり園

事業所の概要

○2017年6月に開所し、新に農作業に取り組む事業所である。
 ○京都市の洛西に位置し、比較的周りに農家も多い。
 ○定員10名の生活介護に取り組み、体験農業の実施、農作物の生産に加えて、近隣住民と連携し商品開発を行い、コミュニティカフェの運営等で提供することを計画されている。



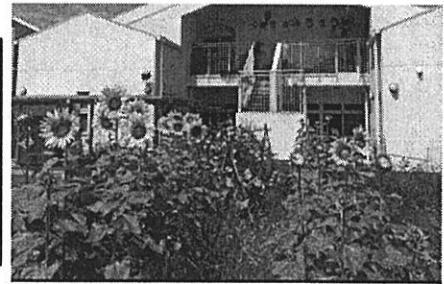
農福連携の状況

○コミュニティカフェのオープンに向け、事業所の改装を実施中。当初は夜景を楽しめるカフェを検討されていたが、設備の問題で断念。地域住民やハイキング等の休憩所として活用を期待していたため、1階部分をカフェスペースにすることになった。今後は、事業所で生産された野菜等を使ったランチメニューを近隣住民と開発し、提供することを計画している。
 ○事業所内にある荒地を修復することにより、近隣の子どものための繋がりを作るため体験農業を実施する。また、カフェスペースの一般解放やマルシェなどを開催し、地域の方々とふれあえる機会を創造する。

京都市農福連携補助金の活用方法

○多くの方が集まれるようコミュニティカフェを改装するとともに、一般開放した際には、利用しやすい工夫を行う。また、地元農家や近隣住民と連携し地元食材を活用したカフェメニューを開発し発展を期待する。

☆地域食材を用いることにより地域貢献及び観光客等の情報発信源となり、多種多世代が繋がる地域共生社会の推進に寄与するとともに、障害のある方の工賃水準の向上や社会参加の拡大を図る。



農福連携キャリアパス事業

#つくる Growing

作業能力や適正が見える化し
 地域に参画する人材をつくる。

■キャリア認証システムの創設

キャリア認証を導入すると...

(就農者側)

次にどんな作業をすればよいかわからない



自分たちの仕事に自信がもてるようになった!

(雇い主側)

何に困っているのかわからない。

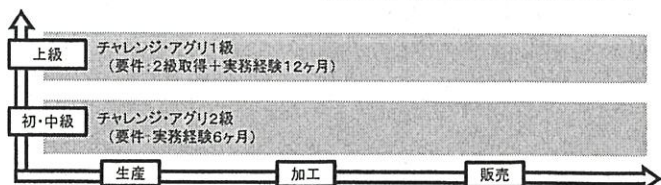


彼らは何が得意なのかわかった!



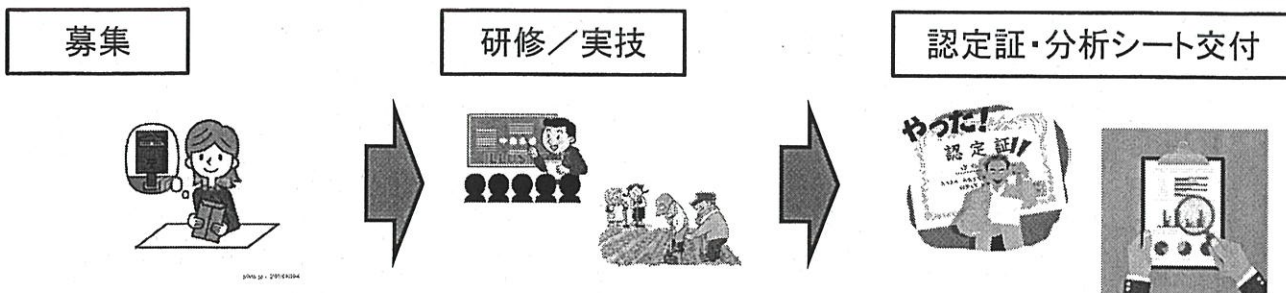
■キャリア認証(例)

チャレンジ・アグリ認定証			
	住所:京都市〇〇区	氏名:鳥丸 農太郎	1級
1級	2級	3級	4級
○	○	○	○
○	○	○	○



農福連携キャリアパス制度 -基礎課程- <概要>

農業研修2回及び実技研修8回、計10回(40時間)の研修・実技課程を通じて、農業の基礎について体得し、農業での働きがいや、作業技術の習得を図る。



■研修・実技課程(フロー)

1ヶ月目	2ヶ月目	3ヶ月目
募集 初回研修(1回)	実技(8回)	定着研修(1回) 認証

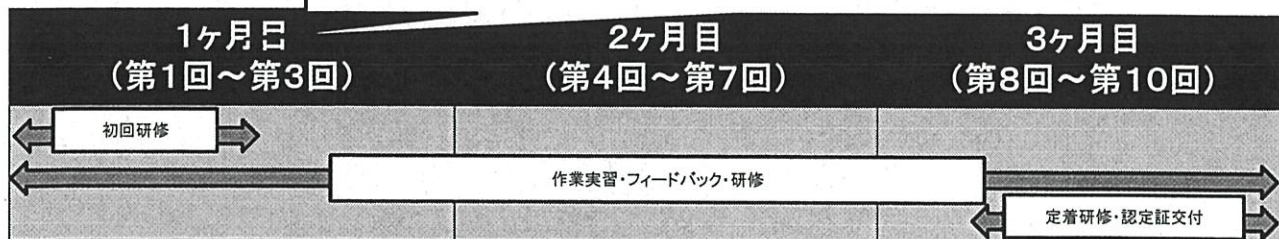
■研修・実技概要

- 目的
 - ・障害者の農業に対する知識・技術の見える化
 - ・就労や社会参加へのモチベーションの向上
 - ・作業工賃等に関する処遇改善
- 対象
 - ・農作業に従事する障害者(特性要件を設けない)
- 認証(評価)
 - ・学習到達度及び就労適性等について評価

運用計画等

■運用イメージ

- 全10回(40h)通所型の認証制度
- 第1回は初回研修(4h)
 - 第2回～第9回は作業実習3h(うち0.5hは実習前M)、フィードバック研修1h
 - 第10回は定着研修(4h)



■初回研修

回数: 1回 時間数: 4時間(開始月1回)

・キャリア認証研修の開始月に「仕事のいろは」「社会人マナー」について学ぶ初回研修を実施。

■作業実習・フィードバック研修

回数: 8回 時間数: 32時間

【作業実習】

- ・作業実習を通して、農業技術の習得と集団意識を養いながら就労基礎力の向上を図る。
- ・実習期間中は、専任支援員によるアセスメント～モニタリングを行い、能力と可能性について図る。

【フィードバック研修】

- ・作業実習での学習内容をふりかえり、知識や技術の定着を図る。

■定着研修

回数: 1回 時間数: 4時間(最終月1回)

・農業全般についての基本理解を深めるため定着研修を実施。

農福連携キャリアパス制度 -基礎課程- <学習・運営>

■学習(1日の動き)

	研修回	実技回
10:00~10:10	身だしなみチェック	
10:10~10:30	研修ダイジェスト確認	実技ダイジェスト確認
10:40~12:40	研修(作物の種類) ケーススタディ(栄養素)	実技(畑の耕しかた) (肥料のあげかた)
12:40~13:30	昼休憩	
13:30~15:30	研修(業務報告の仕方) ループワーク	実技(鍬の扱いかた) 実技ふりかえり
15:30~15:50	1日のふりかえり	

●学習

- ・研修・実技開始前に「身だしなみチェック」を行う
- ・農業の作業工程にあわせて実習、教本でふりかえる
- ・報告・連絡・相談のしかた等、職業訓練を行う

●運営

- ・研修・実技について、南北サテライトへ委託実施(サテライト拠点の事業所農地を使用)
- ・講師役は、原則サテライト事業所支援員が担う

■教本(もくじイメージ)

もくじ

学習ノート

- Day 1 初回研修
- Day 2 実技① 畑づくり
- Day 3 実技② 種まき
- Day 4 実技③ 発芽と間引き
- Day 5 実技④ 生育管理①(間引きと追肥①)
- Day 6 実技⑤ 生育管理②(間引きと追肥②)
- Day 7 実技⑥ 収穫してみよう
- Day 8 実技⑦ 製品づくり
- Day 9 実技⑧ 販売してみよう
- Day10 定着研修

研修・実技(フロー)

■研修編(D1・D10)

	研修時間	内容
朝礼	10:00~10:30(30分)	ミーティング(身だしなみ・ふりかえり) ・プレ研修
研修	10:40~11:40(60分) 11:50~12:50(60分)	研修
(昼休憩)	12:50~13:30(40分)	昼食・トイレ休憩
研修	13:30~14:30(60分) 14:40~15:40(60分)	研修 フィードバック(まとめ・反省)

■実技編(D2~D9)

	研修時間	内容
朝礼	10:00~10:30(30分)	ミーティング(身だしなみ・ふりかえり) ・プレ研修
実技	10:40~11:40(60分) 11:50~12:50(60分)	実技
(昼休憩)	12:50~13:30(40分)	昼食・トイレ休憩
研修	13:30~14:30(60分) 14:40~15:40(60分)	研修 フィードバック(まとめ・反省)

「チャレンジ・アグリ認証－基礎課程－」のプレ認証を 開講

- ・プレ認証(講座)では、5日間で約20時間程度のカリキュラムを開講し、農作業に関する入門研修から、種まきや定植といった農業技術について実技を行い、制度の検証を行います。

[特 徴]

- ・講義研修と作業実技を組合せたハイブリッド型講座で専門知識・意識の向上を図ります。
- ・受講生、研修講師、支援者の3者が学習状況を把握できるよう連絡ツールを整備します。
- ・認証取得後、ジョブカフェ等とも連携したキャリアサポート支援を行います。

24

- (1) 日 時 全5回(各回10時から16時までを想定)
- 【第1週】2月 2日(金)[内容:はたらくということ・農業の仕事]
 - 【第2週】2月 9日(金)[内容:畑づくり・種まき]
 - 【第3週】2月23日(金)[内容:発芽・間引き]
 - 【第4週】3月 2日(金)[内容:生育管理(収穫等)]
 - 【第5週】3月 9日(金)[内容:食生活(栄養素)・食文化・ふりかえり]

- (2) 場 所 社会福祉法人
京都聴覚言語障害者福祉協会
(山城就労支援事業所「さんさん山城」)

25

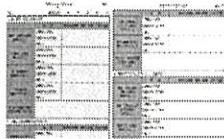
(3) 定員 5名程度（障害がある方で農業の仕事に興味がある方）

(4) 受講料 無料
※作業服・作業備品等が必要な際は別途徴収します。

(5) 認証 「チャレンジ・アグリ認証－基礎課程－〈プレ認証〉」認定証を交付
※平成32年度までプレ認証取得者向けに本認証取得の経過措置を設けます。

(6) 主催 京都府（きょうと農福連携センター）

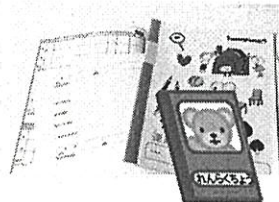
・ 〈参考〉 使用教材等



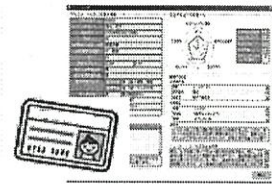
アセスメント帳票



教材



支援ツール



認定書（分析シート）

チャレンジ・アグリ認証－基礎課程－ 〈プレ認証 概要〉

農業研修2回及び実技研修3回、計5回（20時間）の研修・実技課程を通じて、農業の基礎について体得し、農業での働きがいや、作業技術の習得を図る。

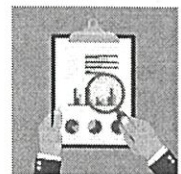
募集



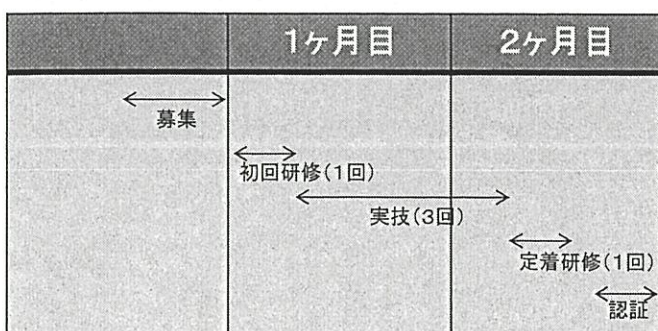
研修／実技



認定証・分析シート交付



■ 研修・実技課程（フロー）



■ 研修・実技概要

- 目的
 - ・障害者の農業に対する知識・技術の見える化
 - ・就労や社会参加へのモチベーションの向上
 - ・作業工賃等に関する処遇改善
- 対象
 - ・農業に興味がある障害者（特性要件を設けない）
- 認証（評価）
 - ・学習到達度及び就労適性等について評価

農福連携キャリアパス制度 -基礎課程- <プレ認証 学習>

■ 学習(例: 1日の動き)

	研修回	実技回
10:00~10:10	身だしなみチェック	
10:10~10:30	研修ダイジェスト確認	実技ダイジェスト確認
10:40~12:40	研修(作物の種類) ケーススタディ(栄養素)	実技(畑の耕しかた) (肥料のあげかた)
12:40~13:30	昼休憩	
13:30~15:30	研修(業務報告の仕方) グループワーク	実技(鎌の扱いかた) 実技ふりかえり
15:30~15:50	1日のふりかえり	

● 学習

- ・研修・実技開始前に「身だしなみチェック」を行う
- ・農業の作業工程にあわせて実習、教本でふりかえる
- ・報告・連絡・相談のしかた等、職業訓練を行う

■ 教本(もくじイメージ)

もくじ	
学習ノート	プレ認証で扱う内容
Day 1 初回研修	
Day 2 実技① 畑づくり	
Day 3 実技② 種まき	
Day 4 実技③ 発芽と間引き	
Day 5 実技④ 生育管理①(間引きと追肥①)	
Day 6 実技⑤ 生育管理②(間引きと追肥②)	
Day 7 実技⑥ 収穫してみよう	
Day 8 実技⑦ 製品づくり	
Day 9 実技⑧ 販売してみよう	
Day10 定着研修	

京都式農福連携事業 年間計画



	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
農福連携 キャリアパス 事業	制度構築							制度プレ運用		
								試行期間		
								募集		
								実地研修		
								認証		
農福連携 事業	専門家派遣(作付指導・栽培指導等)									
			マルシェ (マルイ店頭)		農福マルシェ 観芸祭		郊外マルシェ			農福マルシェ 観桜祭
			マルシェ (イオン店頭)							
地域共生 社会推進 事業 (補助金事業)	春期募集		整備期間			地域交流事業実施				
			秋期募集			整備期間			地域交流事業実施	